

兄と魚

小川未明

青空文庫

正二は、夏のころ、兄さんと川へいつしよにいつて、とつてきた小さな魚を、すいれんの入っている、大きな鉢の中へ入れて、飼っていました。

そのうちに、夏も過ぎ、秋も過ぎてしまつて、魚は川にいれば、もう暖かな場所を見て冬ごもりをする時分なのに、鉢の中では、そんなこともできませんでした。

寒い風が、野の上や、森をふく、ある日のことでありました。

「おや、魚が死んでいる。正ちゃん、早くおいで。」と、庭へ出た兄さんが呼びました。

「かわいそうに。」と、正二はいいながら、走つてそのそばへいききました。

鉢の中には、水がいつぱいあつて、すいれんの葉は、いつのまにか枯れて、水の底の方に沈んでいました。

「これは、たなごだね。」

「こいみたいだな。」

「いいや、たなごさ。かわいそうに、こんなにやせてしまつて、栄養不良で死んだのだよ。」と、兄は手のひらにのせて、悲しそうに、ながめていました。

「僕、ときどき、ふをやつただけけれど。」と、正二がいました。

「川にいれば、いろいろのものを食べるから、大きくなるのだけれど、こんないれものの中では、ほかに食べるものがないだろう。正ちゃん、あとの二匹をかわいがってやろうね。」と、兄さんは、底の方にかくれるようにしている魚をのぞきながらいいました。

正二は、自分たちのいった川は、いま冷たい水が、ゴウゴウと音をたてて流れているだろうと思うと、あとの二匹をその川へ逃がす気にもなれなかったのです。

「兄ちゃん、あとののは、かわいがってやろうよ。」

「ほかのいれものに移して、お家の中へおこうね。そうして春になったら、また、ここへ入れることにしよう。」

「ごはんつぶをやろうか。」

「冬は、あまりものを食べないものだ。それより、あたたかにしてやるほうがいいのだよ。」

正二は、兄が手に持っている魚をどうするだろうと思っただけで見えました。

「正ちゃん、手すきを持っておいで。」と、兄は、いいました。

正二がものおきから、手すきを取り出してくると、兄はつばきの下に穴を掘りました。

「ああ、ここへうめてやるのだな。」と、正二が見ていると、兄は、落ち葉を探してき

ました。正二は、なにをするのだろうと、黙って見ていると、穴の下へその枯れ葉をしましました。そして、死んだ魚をその葉の上へのせました。それからまた、枯れ葉をその上へしいて、土をかけたのであります。

終わりまで、黙って、これを見ていた正二は、やさしい兄の心持ちがよくわかりました。

「いい兄さんだな。」と、思いました。

「川でとつてきてから、こんな長くていたんだもの、あとの二匹を殺しちゃ、僕たちが悪いのだよ。どうかして、この冬を越すように、かわいがってやろうね。」と、兄さんはいました。

正二も、そうだと思いました。部屋へおくようになってから、寒い晩は、水をこおらせないようにはしました。また、お天気になると、縁側へ出して、日の光に当ててやりました。

ある日、正二は、雑誌にのっているお話を読んでいるうちに、おやと、びっくりしました。なぜなら、それには、こう書いてありました。

「私は死んだ金魚をどぶの中へ捨てる気にはなれませんでした。穴を掘って木の葉をしき、その上へのせて、また葉をかけて土にうめてやりました。」

「うちの兄さんと同じことをしたのだ。なんというふしぎなことだろう？」

正二は兄のところへかけてゆくと、

「兄さん、これを読んでごらんさい。」と、雑誌を出しました。

「なんだい、童話だね。そんなにおもしろいのかい。」

「ここんところだよ。」と、正二は、書いてあるところを指さしました。

兄は、黙って読んでいました。しばらく、なにもいわずに考えていましたが、そのうちに、

「ははは。」と、大きな声で笑いました。

「兄さんと同じだろう、この人、兄さんのしたことを知っているのかなあ。」と、正二

は、頭をかしげました。

「そんなことはないよ。正ちゃん、だれでも人というものは、正直であれば、おんなじことを考えるんだね。僕ばかりかと思つたら、そうでなかった。だからよくお話しすれば、どの子もみんないいお友だちになれるんだよ。」と、兄はいいました。小さな正

二^じくんも、なるほどなど、うなずくことができたのであります。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 13」講談社

1977（昭和52）年11月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「僕はこれからだ」フタバ書院成光館

1942（昭和17）年11月

初出：「いくみん三年生」

1940（昭和15）年12月

※表題は底本では、「兄《あに》と魚《さかな》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2018年5月27日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作ら

れました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

兄と魚

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>